

平成 29 年度事業報告

理事長 田中 一雄

●求められる「新協会運営体制」

JIDA は日本唯一の全国的なインダストリアルデザイナー団体として 65 年を超える活動が続けてまいりました。センター活動の各委員会においては、「世界の中の日本の JIDA」としてインダストリアルデザイン界全体を見据えて活動しています。一方、各地域のエリア及びブロック活動においては、職能団体として「地域ネットワーク」に根差した活動を続けて来ました。こうした両面性は、公益社団法人としての価値と同時に、職能性に根差した共益的な価値でもあります。実態的にはこの二つの価値が、相互に関連しつつ活動していますが、常に協会活動全体を客観化しつつ行動することが必要であると考えます。

協会の収支は活動の基盤ですが、大変残念ながら平成 29 年度は黒字化することが出来ませんでした。これは、当初予算化されていなかった退職引当金の新規導入によるものですが、予算全体としても極めて危うい状況であったことを認識しておかなくてはならないでしょう。各事業を振り返ってみますと、受託事業とデザインミュージアム・セレクション事業などが計画を上回りましたが、その他は残念ながら比較的低調でした。JIDA は、基本的に会員の会費によって運営されていますが、各種事業における収支も重要な要素です。各委員会と各ブロック活動は、単一事業としては黒字であっても、その背景には協会全体や各エリアを運営する様々な事務経費が存在し、それによって事業が支えられています。各種の個別活動収支が拮抗している場合は、結果的に協会全体として脆弱な財務状況となっていることも、会員各位にご認識頂かなければならない状況にあります。

今後は、各種事業の収支バランスの更なる精査を進めるとともに、協会全体の運営体制の再検討が求められる局面となっています。このような観点から、29 年度の各委員会・ブロック活動を振り返ってみたいと思います。

・内務委員会

昨年に引き続き協会運営上の課題対策が積極的に検討され、各種の規約・規程の見直しなどが進められた。特に本年は、協会が目的としているインダストリアルデザインの普及啓発事業を更に広げるために、受託事業を強化する方針が出された。その成果として地方自治体や海外企業からの受託事業が複数実施されたが、それらの事業運営に於ける公正性、コンプライアンス視点からのサポートに注力した 1 年となった。

・広報委員会

29 年度においては、公式 Web サイトの大幅なリニューアルと運営を行うほか、Web マガジンの運営、公式 Facebook を用いた広報活動の継続をおこなった。また、昨年度に引き続きアニュアルレポートの発刊を行うほか、JIDA 公式パンフレット（日本語版、英語版）のリニューアルを実施し、広報ツールとしての活用を推進した。その他、季刊誌カースタイリング JIDA ページへの記事提供の継続、紙媒体としての Face Letter の発行などを実施した。広報活動は、JIDA の価値を社会に発信する重要な役割を担っているが、慢性的な体

力不足と資金難が課題となっており、協会活動全体としての更なる支援が必要とされる。

・ 渉外委員会

本年も、多様な渉外交流活動が活発に行われた。特に、本年度は継続的な活動に加え、新たに国内外からの委託事業を実施し高い評価を得ている。一方、新たな事業の開始に伴い、規程や事務処理等での課題も見えてきた。現在、渉外委員会担当事業が多岐に渡るため、再編新設された教育委員会に国際学生ワークショップである ADA 事業を移管する他、インハウス委員会へも一部事業を移管した。

・ ビジョン委員会

29 年度は、前年に引き続き理念的、事業的、広報的側面から、「フォーラム・会員サービス・学生アワード・広報充実」中心に活動をおこなった。特に JIDA フォーラム「インダストリアルデザインのプロフェッショナルリズム」は、今後も継続的に実施していく予定である。

・ 職能委員会

インダストリアルデザイナーの今日的定義化と、その役割認知および地位向上、デザイン業の事業環境整備を目指して活動している。本年も、弁理士会との定期研究会、知財関連セミナー実施やサポート活動、PD 検定普及促進、資格認証制度に向けての準備などを進めた。本委員会においては、PD 検定活動の更なる推進が課題となっているが、人的、財務的体制の強化が求められる。

・ スタンドアード委員会

過年度に引き続き、セミナー部会では、各種素材や加工技術に関する勉強会を 4 回実施した。また、サンプル部会では、スタンダードサンプルやキッズデザインツールなどの販売を継続的に実施し、一定程度の収入を確保した。その他、産総研と消防庁との共同研究活動を進めた他、日本デザイン学会春季大会において発表・展示を行い、JIDA とデザイン学会との連携強化に努めた。

・ デザインミュージアム委員会

本年は、JIDA DM1 号館開設 20 周年記念事業を、信州新町美術館を含めて大々的に実施したことが特徴である。また、ミュージアムセレクション事業においては、本年も充実した活動を展開し、選定品の質・量ともに着実な向上となった。ゴールドセレクション賞も 4 年目に入り更なる定着を見せ、賛助会員企業からの参加意識の高まりがみられたことは、大きな成果であった。

・ 教育委員会

渉外委員会より引き継がれた、ADA(Asia Designers Assembly)国際学生デザインワークショップを、久留米市の石橋文化センターの勤労青少年ホールで開催し高い評価を得た。このワークショップには、(公財) 三菱 UFJ 国際財団と (公財) 久留米観光コンペティション国際交流協会の助成を受けたのと同時に、(公財) 石橋財団の支援によるものも大きく、今後も継続的な実施が望まれている。また、留学生交流会、三井化学「産学連携プロジェクト」選定委託事業、専門学校の教育課程編成委員会外部委員の派遣などを実施した。

・ インハウス委員会

本年度より、東日本ブロックから分離しセンター委員会活動として運営している。これ

は、協会全体として賛助会員企業への存在感強化と、価値提供の推進を目指すものである。中心となるインハウス女性デザイナー研究会は第 31 期を迎え、本年も充実した活動が行われた。その他、社会視点からのインダストリアルデザインと異業種の取り組み強化を目指し、木育デザインフォーラムを実施し、多数の参加を得ることができた。

・東エリア

最大規模のエリアとしてセンター活動とも連携し、多様なイベント・セミナー運営など活発な活動を行っている。今年度からは新たにユニット制を敷き、ブロック長のもと十名の運営委員メンバーが研究会活動全体を支援する体制とした。今までは、有志での自発的活動がメインであった委員会・研究会活動を“デザイナーのバリューアップ“を目指すため、真に有益な活動として全面的に再構築した。また「ソーシャル・スキル・ビジネス」と目的別に 3 つのユニットに分類し、イベントやセミナーも幅広く開催した。

・中エリア

本年も昨年に引き続き、セミナー、ワークショップ、サロン、交流会を開催するとともに、デザイン大学卒業制作展を訪問し表彰活動を行った。また、北陸ブロックにおいては、地場産業デザインのトレンド発信として、積極的なセミナー展開を実施している。また、エリア会議においては、3 エリア連携策の検討を推進した。

・西エリア

関西ブロックでは、センター委員会と同様に、総務・広報・ミュージアム・スタンダード・教育・職能など委員会を中心に、数多くのセミナー、フォーラム、ワークショップ、サロン、研究会、交流会、見学会などが開催された。また、JIDA 関西ブロック学生デザイン賞を実施し、次世代への協会認知度の向上と、エリア連携へ足がかりとした。西日本ブロックでは、対象地域が広範囲に亘る中、引き続き積極的な交流活動を展開した

このような多様な活動を通じ JIDA は、インダストリアルデザインの職能を基盤に「ビジョン発信、ネットワーキング、職能支援、人材育成、社会貢献」などの活動を続けています。今後とも、会員と社会に必要とされる JIDA を強化推進し、より力強いものとして参りたいと存じます。会員各位のなお一層のご理解と、ご支援をお願い申し上げます。